超高齢社会に対応した地域公共交通等の利便性の向上

●「我孫子市総合計画に関するアンケート調査報告書」（令和2年4月策定）では、生活しにくいと考える理由として「交通の便の悪さ」が72.9％と最多となっています。

●市内の交通の便が悪い地域では、買物や医療機関への通院などが不便になり、生活のしにくさを感じている方も多くなっています。

●また、先日、福島で97歳の男性が運転する車が車道に突っ込み、6人が死傷するという悲惨な事故が起きましたが、免許を返納すると交通の便が悪いため、日常生活に支障をきたすことになるのではないかと悩んでいる方も多くなっています。

●そこで、今回は、超高齢社会に対応した鉄道以外の地域公共交通等の利便性の向上について、質問させていただきます。

（1）民間バスの現状と課題

●民間バスは、自家用車の普及とともに利用者が減少し、それを維持するために増加したコストを削減しようと、路線の統廃合や便数の見直しがされてきましたが、それが逆に不便さを増し、利用者がさらに減少してしまうという悪循環が続いています。

●そして、ここ数年のコロナ禍のなかでバス利用者はさらに減少し、民間バス事業者の経営悪化が報道されています。

●市内を運行している民間バスは、路線によって減便されたと聞きますが、利用者数や運行便数等、民間バスの運行状況をお聞かせください。

●また、民間バスの運行を継続するための課題もお聞かせください。

（2）タクシー運行

●公共交通としてバスと並んでタクシーがあります。

●市内を運行しているタクシー会社は5，6社、その他に個人タクシーが運行していると聞いています。

●バスと同様、タクシー利用者もコロナ禍で減少したようですが、タクシー運行の現状と課題をお聞かせください。

●また、最近は駅前にタクシーが止まっていないので利用したくても使用できないとの声を聞きますが、タクシーの配車状況をお聞かせください。

（3）「あびバス」について

●「あびバス」の運行は、「高齢者の外出支援」の目的で、高齢化が最も進展していた新木地区において、平成17年にモデル事業として始まりました。

●その後、「あびバス」の運行目的は、「公共交通機関を補完する交通手段」に変更され、現在、市内5ルートで運行されています。

●しかし、特に高齢化が進展した地域では、高齢者の足として「あびバス」への期待も大きく、更なる「あびバス」の利便性向上が求められています。

●はじめに「あびバス」の現状と課題について尋ねします。

ア.「あびバス」の利用状況

●「あびバス」全体の利用人数は、平成元年度 20 万5，443人、令和2年度14万8，056人、令和3年度16万5，851人と令和 2 年度から大幅に減少していますが、その要因をお聞かせください。

●また、各ルートの利用状況と利用人数の動向、その要因をお聞かせください。

イ. ルート変更が行われた新木ルートの検証

●新木ルートでは、使用していた車両が自動車排出ガス規制による製造中止となり、新型車両導入に際し、現行ルートで通行困難な箇所が生じたことから、平成28年から運行ルートが縮小され、停留所もいくつか無くなりました。

●ルート変更の際、市内でも高齢化率の高い新木野地区や吾妻台地区の住民生活への影響が懸念されましたが、当時より一層高齢化の進展した当該地域からは、高齢者の足の確保に不安な声が聞こえ、「あびバス」導入時以上に「高齢者の外出支援」という機能が求められています。

●ルート変更した地域を検証し、その結果に基づいた対応が必要だと思いますが、市のお考えをお聞かせください。

ウ. 「あびバス」の運行経費と市の負担額

●「あびバス」の総額運行経費は、令和元年約 7,400 万円、令和2年度約8, 100万円、令和3年度約8, 700万円と年々増加しています。

●総額運行経費にはどんな経費が含まれているのか？

●また、年々増加している要因は何なのか、市の見解をお聞かせください。

●市の負担額は総額運行経費から運賃収入を差し引いた額ですが、市の負担額が年々増加している要因と市の負担額を削減するための市のお考えをお聞かせください。

エ. 「あびバス」の拡充と利便性の向上についての市の見解

●超高齢社会のなかで、市民の暮らしを維持していくためには、高齢者の足の確保が大きな課題です。

●「あびバスの運行」には、利用者の問題、運行経費の問題、市の負担額の問題等、様々な課題があります。
●しかし、アンケート調査報告者（「我孫子市総合計画に関するアンケート調査報告書」）においても、「公共交通の充実と駅周辺の整備」が、今後、我孫子市に特に力を入れて取り組んでもらいたい施策として、全体では3番目、湖北・新木・布佐地区など交通の便の悪い地域では2番目に挙げられています。
●「あびバス」の拡充と利便性向上について、市の見解をお聞かせください。

（4）送迎バスの活用

●我孫子市では、市内の病院や大学など 10 事業者のご厚意によって、22台の送迎バスを活用させていただき、高齢者等外出応援事業を行っています。
●大変良い事業だと思っていますが、最近、この事業を理解していない一部利用者のマナーの悪化や運転手さんに対する無理な要求なので、事業者の協力が得られなくなったケースも発生したと聞いています。
●送迎バスを活用した高齢者等外出応援事業の利用状況と今後の課題をお聞かせください。

（5）福祉有償運送の現状と課題

●道路交通法によると、福祉有償運送とは、NPO 法人や社会福祉法人などの非営利法人が、要介護者や身体障害者などの移動制約者の通院や外出を支援するために福祉車両や一般車両を使用し、有償で行うドア・ツー・ドアなどの個別移送サービスのことです。

●市内では社会福祉協議会やNPO法人「ビーグルサービス」などが福祉有償運送を行っています。
●要介護者など、一人で公共交通機関を利用することが出来ない方が増加しているなか、福祉有償運送の継続が求められます。
●福祉有償運送の会員数や利用者数などの現状、また、継続していくための課題をお聞かせください。

（6）地域公共交通の利便性向上の提案

ア．福岡県嘉麻市の“ハイブリッド型デマンド運行”

●最近、議員に配付された行政マガジンの中に、「地域事情にマッチした“わがまち”の交通システムという地域交通に関する特集記事がありました。
●その中のひとつが、福岡県嘉麻市の市バスの利用者数を約1．7倍にしたハイブリッド型デマンド運行バスの事例でした。
●嘉麻市では、市バスの乗降客数を分析した結果、朝から昼にかけては利用者が多く、その一方で午後は利用者がいない時間帯もあったそうです。
●デマンド運行の場合、利用者が重なると希望のある場所へあちこち移動しなければならず、まとまった利用が想定される時間帯は定時定路線運行でなければ非効率だと感じていたそうです。
●そこで、定時定路線運行とデマンド運行を同一車両で時間帯によって切り替える“ハイブリッド型デマンド運行”を検討したということです。
●当初は高齢者の利用を想定していたそうですが、デマンド運行バスは、保護者が予約して児童が単独で学童クラブや習い事などへの送迎に便利で安全に利用することが出来るということで、子育て世帯の利

用がみられるようになり、誰もが使いやすい公共交通になったということです。
●「あびバス」の拡充が求められていますが、厳しい財政状況の中でそれを実現するためには、利用者を増やして運賃収入を増やす努力が必要不可欠です。
●「あびバス」の利用者を増やし、「あびバス」を拡充して利便性向上につなげるため、先ずは、嘉麻市の“ハイブリッド型デマンド運行”の検討をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

イ. 山形県南陽市のタクシー活用のコンパクトな地域公共交通
●地域公共交通の利便性向上のためのもう一つの提案です。
●南陽市では、公共交通の空白地帯となっていた地区で、高齢者の日常の外出に絞って、タクシーを活用したコンパクトな地域公共交通を住民の力で実現しました。
●先ずは、地区長会を母体とする地域公共交通検討会を設置し、視察や勉強会を重ねるとともに、地区内の高齢者にアンケート調査を実施し、移動困難な高齢者は全体の1割程度、約200人という事実を数値で確認。
●少ない需要に対し浮上した案が、民間タクシーの活用だったそうです。
●利用対象は、登録した地区の60歳以上の人で、家族や知人の相乗りが可能。
●運賃は1乗車500円。（片道）
●運行時間は平日の8時から17時で前日予約。
●運行範囲は自宅から指定されたタクシーのりば間、という運行ルールが決められています。

●また、運行経費の負担割合は、利用者の自己負担金が40%、地区負担金が12%、そして市の補助金が48%。
●検討委員会が地区の全住民を構成員とする協議会に再編され事業主体となっており、行政はサポート役に徹しています。
●市内の限られた地区の少ない需要に対し、コストを抑えながらも必要十分なサービスを実現していくために、南陽市の取り組みは参考になると思います。ぜひ、検討をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。